



札幌大学孔子学院

062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1

平成19年10月9日

各位

札幌大学孔子学院  
学院長 張 偉雄

## 「第5回札幌大学孔子学院講演会」のご案内

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて本学院では、昨年11月の中国政府との協定により「札幌大学孔子学院」の設立以来、中国事情に詳しい各界の方々をお迎えして講演会を定期的を開催しております。このたび、北海道新聞社編集委員の佐々木政文氏をお迎えし「第5回札幌大学孔子学院講演会」を開催する運びとなりました。

皆様には時節柄、何かとお忙しい事とは存じますがご参加いただきますようご案内申し上げます。 敬白

記

日時：平成19年11月10日（土） 14:00～16:00

受付開始時刻：13:30

場所：キャリアバンク「セミナールーム」

（札幌市中央区北5西5 sapporo55 ビル 5階）

講師：佐々木 政 文氏 北海道新聞社編集委員

演題：ジャーナリストの目で見た中国

※ 参加料無料

■□申込方法□■

「11/10 講演会希望」と記し、さらに①氏名 ②性別 ③年齢(何歳台) ④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号を明記し下記にEメール、FAXまたは電話でお申し込みください。希望者多数の場合には抽選となります。

★ 申込締め切り：11月1日（木）16:00必着

<お問い合わせ先・申し込み先>

札幌大学孔子学院事務局

（祝日を除く 月～金 9:00～16:30 土 9:00～12:00）

電話 011-852-9754 FAX 011-856-8284

E-mail [su-koshi@ofc.sapporo-u.ac.jp](mailto:su-koshi@ofc.sapporo-u.ac.jp)



札幌大学孔子学院

062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1

佐々木政文（ささき まさふみ）氏  
北海道新聞社 編集委員

中国が世界に占める役割の大きさ、中国社会のひずみ（貧富の格差）、反日デモや愛国運動の背景となる日中関係の歩みについて解説しながら、1980年前後からオリンピックを開催できるようになった現代までの中国をめぐってお話します。そして「中国のいま」を理解するメッセージを発信したいと思います。

**次ページの講演要旨もご参照ください。**



〔略 歴〕

1956年 帯広市生まれ

1979年 北海道大学文学部卒業

1982年 北海道新聞社入社

江別支局、社会部、東京政経部、（官邸、外務省、自民党などを担当）を経て、95年～98年に中国に駐在。社会部（道警キャップ）、帯広報道部次長、東京社会部次長を経て、2006年3月から北海道新聞社編集委員。

〈中国との関係＝通算6年北京に住みました〉

79-81 北京語言学院、北京大学哲学学部留学

（改革が始まったばかり。ガチガチの社会主義時代でした）

89-90 北京外国語大学留学

（天安門事件も取材し、その直後の暗い時代に1年間いました）

95-98 北海道新聞北京特派員

（江沢民時代で、鄧小平が死去、香港返還があった時期です）



札幌大学孔子学院

062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1

〔講演要旨〕平成19年11月10日(土)

佐々木 政文

13億人の人口を抱える大国。人類の総人口が65億人ですから、人類の5人に1人がなんと中国人なのです。この巨大な国の姿をどう見ればよいのか、実は私自身も考えれば考えるほど、迷路に入り込んでしまいます。

経済規模のさまざまな指標からは近い将来、「世界の経済大国」になる姿が見えます。軍事力や日中間の係争に着目すれば、「中国脅威論」を支持したくなることもあります。貧困地区とその支援に力点を置けば、まだまだ「発展途上国」です。宇宙開発に注目すれば、「技術大国」とも言えます。反面、政治システムに焦点を当てれば、共産党が全てを支配する「独裁国家」といってもいいでしょう。反日デモやスポーツ観戦のモラルの低さを見れば「腹立たしい国」と感じる人も多いと思います。

中国の特徴は、広大な国土や膨大な人口、そして多民族など、多様性にあります。どこかの断片だけを取り上げて、過剰に反応するのなら隣国の判断を誤ります。いろいろな面を総合的に考え、理解することが大切だと思います。私は、いずれにしても中国は「パートナーにすべき強国」と考えています。すでに国際社会では揺るぎない地位を固めているのは間違いありません。だから、嫌な面を見ても疎まず、国際ルールや枠組みの中に入ってもらい、その中で親密な仲間として付き合い、相互理解を深めることが、私たちにとってもプラスになると考えています。

北海道としては、対中投資のための戦略というより、中国の投資を呼び込むための戦略の方に、シフトした方がスムーズに行くのではないかと考えています。つまり、農水産、IT分野、流通などの企業誘致です。

中国共産党の第17回党大会が終わったばかりです。5年に1度開かれる大会ですが、そこで、浮き彫りにされたさまざまな中国の苦悩も含め、隣の大国について「考える素材」を紹介したいと思います。

以上